

目指す学校像	○児童・教師がともに学び続ける学校 ○挨拶・笑顔・歌声が溢れる学校 ○安全・安心・美しい環境で地域とともにある学校
--------	---

◎A	ほぼ達成 (8割以上)
◎B	概ね達成 (6割以上)
◎C	要所の達成 (4割以上)
◎D	不十分 (4割未満)

重点目標	1 ICTを効果的に活用した個別最適な学び、協働的な学びの実現 2 安心・安全な学校に向けた落ち着いた教育環境の整備と教育支援・相談体制の構築 3 学校・家庭・地域の組織的・継続的な連携・協働体制による社会に開かれた教育課程の実現 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい (Well-Being) 学校をつくる教職員研修の充実	※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。
------	--	---

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価		
年度		年度目標			年度評価		実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○昨年度の全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、概ね平均と同程度の結果である。 ○日々の児童の学習の様子からは、与えられた課題には熱心に取り組むことができるが、自ら課題を見つけ進んで課題を解決するという面では課題が見られる状況である。 <課題> ○基礎的・基本的な知識・技能の定着や学力、学習意欲に関しては個人差が大きいことから、ICTを有効に活用しながら、個に応じた指導・支援を行っていく必要がある。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「子どもを主語にした授業」がこれまで以上に展開されるように日々の授業改善を図っていく必要がある。	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ・学習の質的向上「学びのポイント(じ・し・や・く)」の推進	① ICT環境を最大限に活用した個別最適な学び・協働的な学びの実現に向け、学校課題研修を軸に研究を進め、指導者を招聘した授業研究会を実施する。 ② アンケート等の教育データを有効活用し、「学びの指標」を基にした指導方法の改善を図る。 ① 「学びのポイント(じ・し・や・く)」を活用した授業研究を各学級で年間1回以上行う。 ② 学校課題研修を通して学習指導要領の内容について再度確認し、「子どもを主語にした授業」を展開する。 ③ エバンジェリストを中心に、Teamsやミライシードの効果的な活用方法について情報を共有する。	① 指導者を招聘した授業研究会を年3回以上実施できたか。また、全国学力・学習状況調査の平均正答率について昨年度より上回ることができたか。 ② 授業アンケートにより児童の実態を把握するとともに、各種調査の分析を行い、研修内容を修正するなど、学校としての手立てを構築できたか。 ① 「学びのポイント(じ・し・や・く)」を活用した授業研究を年間1回以上行うことができたか。 ② 研修アンケート(教員)により、学習指導要領の実装状況を把握できたか。 ③ 学びの指標の「自分の考えを表現したり共有したりする時に、学習ソフトを使っている」の項目の肯定的な回答が90%以上となったか。					
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査の結果の生活習慣に関する調査において、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはありますか」で全国平均を大きく上回っている。 ○昨年度の児童対象学校評価アンケートにおいて、「毎日、友達と仲よく過ごしていますか」で肯定的な回答が90%以上であった。 ○昨年度の保護者による学校評価で「学校は学習環境を整え、美しい環境づくりに取り組んでいる」で肯定的な回答が、90%以上であった。 <課題> ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し寄り添った対応を行うために、組織として適切に対応することのできる体制づくりが必要である。 ○校内に物が多く、安全・安心のためにも、清潔で整理整頓された教育環境を整備していく必要がある。	・児童一人ひとりに寄り添った教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全・安心で落ち着いた教育環境整備の実現	① スクールダッシュボードの活用、校内委員会の実施により、児童一人ひとりの状況を的確に把握し組織として迅速に対応できる校内体制を構築する。 ② 児童が安心して学ぶことができるよう、SoLa ルームの効果的な活用やオンライン授業の実施、関係機関との連携など、多様な学びの場を設定する。 ③ 特別の教科道徳、特別活動の授業を核とし、児童の自己肯定感を高める教育活動を実践する。 ① 全職員による安全点検を行い、危険個所の早期発見・修繕を徹底するとともに、随時、教室・廊下等の物品の整理を行う。 ② 児童が主体的に清掃活動に取り組めるように清掃指導体制を見直し、校内の整備された環境を維持する。	① スクールダッシュボードを効果的に活用し、児童一人ひとりの状況を的確に把握できたか。また、組織として迅速な対応ができたか。 ② SoLa ルームの運用体制を確立し、児童の状況に応じた多様な学びの場を設定することができたか。 ③ 市学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定的な回答が90%以上であったか。 ① 学校評価(保護者)「学習環境を整え美しい環境づくりに取り組んでいる」「児童の事故防止に努め施設・設備の安全に取り組んでいる」の項目の肯定的な回答が90%以上であったか。 ② 清掃指導体制を見直し、日常の児童の清掃への取組状況を把握できたか。					
3	<現状> ○昨年度は、開校150周年に関わる様々な事業について、学校運営協議会でも熟議を行い、連携を図りながら進めることができた。 ○令和4年度まで感染症拡大防止のために中止・縮小していた行事等について、ICTを効果的に活用し、行い方を工夫しながら実施した。 <課題> ○学校運営協議会について、テーマを明確に設定し、具体的な行動に向けた建設的な熟議を行うことができるようにする。また、熟議した内容を、地域・家庭等に周知し、共通理解の下、実現に向けた具体的、継続的な行動を行っていく必要がある。 ○家庭・地域・学校が一体となって、児童の教育に当たることができるよう、目指す児童の姿や学校での教育活動の様子を地域・家庭に積極的に情報発信していく必要がある。	・地域や関係諸機関と連携した教育活動の実施 ・目指す児童の姿を共有するための教育活動の公開	① 年3回の学校運営協議会を開催し、目指す児童の姿を明確にして熟議を行う。 ② 近隣の保育園・幼稚園、小・中一貫教育ブロックの関係校との連携をより一層推進する。 ① 地域や家庭へ向けた教育活動に関する情報を、学校だよりや学校ホームページ、学校安心メール等を活用し、月に2回以上発信する。 ② 学校行事や学校公開等、家庭・地域に向けて積極的に教育活動を公開する。	① 学校運営協議会を年3回実施し、委員から出された意見を踏まえ具体的な行動目標を設定することができたか。 ② 教育機関との連携を図りながら、「架け橋プログラム」を策定することができたか。 ① 学校評価(保護者)「授業参観や学校行事、学校安心メール、学校ホームページ等を通して、家庭との連絡・連携を適切に行っているか」の項目の肯定的な回答が90%以上であったか。 ② 学校行事や学校公開等で、教育活動を公開する機会を昨年度より増やすことができたか。					
4	<現状> ○計画的に校内研修を実施し、指導者による指導を受けながら、教職員の専門性向上に向けて取り組むことができています。 ○エバンジェリストを中心に、ICT活用に向けたハード面の整備が進められている。 <課題> ○教員のやりがいを大切にしながら、学校全体で業務改善と業務の平準化を進める必要がある。 ○デジタルをアナログの代替として捉えるのではなく、ICTを活用したからこそそのよさや変化が感じられる授業改善が必要である。	・一人ひとりの教職員の専門性向上に向けた校内研修の充実	① 教職員の専門性向上に向け、指導者を招聘した授業研究や研修会を行う。 ② 一人1回以上、学校課題研修にかかわる授業公開を実施する。 ③ 各学級でICTの効果的な活用が図られるよう、エバンジェリストを中心として、ICTの具体的な活用方法や好事例について日常的に情報共有を行う。	① 指導者を招聘した授業研究や研修会を実施することができたか。 ② 教職員が、一人1回以上の授業公開に主体的に取り組むことができたか。 ③ 学校評価(教職員)「思考を可視化し、考えを伝え合う場を設定したアクティブラーニング型授業を実施できたか」「ICTを効果的に活用した授業を実施することができたか」の項目の肯定的な回答が90%以上であったか。					